ファンティック・レーシング・ニュース
2025 年 11 月 10 日

ポルトガル GP：ファンティック・レーシング、ロードレース世界選手権 Moto2 クラスの 2025 年チームタイトルを獲得

ポルティマオでのダブルトップ 5 により、最終戦を待たずしてチームタイトルを決める。

MotoGP 第 21 戦ポルトガル GP が、11 月 7 日から 9 日にかけて、ポルトガルのアウトドローモ・インターナショナル・アルガルベで行われ、Moto2 クラスに参戦するファンティック・レーシングのアロン＝カネットが 4 位、バリー＝バルタスが 5 位でチェッカーを受けた。

ポルトガル GP は、2024 年にカネットが優勝を飾ったグランプリである。金曜日は、一日中、小雨が降ってはやむ不安定な天候となった。ただ、雨粒は路面を濡らすほどではなく、雨が降ってきたことを知らせるレッドクロスのフラッグは提示されたものの、基本的にセッションはドライコンディションで進んだ。

こうした状況の中、カネットは圧倒的なパフォーマンスを見せた。午前中のフリープラクティス 1、午後のプラクティスでともにトップタイムを記録。プラクティスでは、それまでのオールタイム・ラップ・レコードを更新する 1 分 41 秒 210 を記録している。バルタスもプラクティスで 9 番手タイムをマークし、二人揃って Q2 ダイレクト進出を果たした。

夕方から本格的に降った雨により、土曜日の午前中はウエットコンディションとなった。このため、ファンティックの二人のライダーは、フリープラクティス 2 ではセッション終盤に数周だけ走行し、主にスタート練習に集中した。

ドライコンディションとなった予選では、バルタスは 1 分 41 秒 337 のタイムで 4 番手を獲得。カネットもポールポジションを争ったが、終盤に転倒を喫して最終的に 1 分 41 秒 355 の 5 番手で Q2 を終えた。なお、カネットにけがはなかった。

迎えた日曜日、時差の関係から、Moto2 クラスの決勝レースはこの日最初のレースとなった。2 列目 5 番手からスタートしたカネットは、慎重なスタート後にリズムを取り戻し、4 位でフィニッシュした。

一方、バルタスは見事な追い上げのレースを披露した。スタートではトップ 10 圏外にまでポジションを落としたものの、そこから粘り強く着実に順位を上げていき、14 周目には 5 番手に浮上。バルタスはそのポジションを守ってゴールしている。

この日、カネットとバルタスによって獲得した 24 ポイントにより、最終戦を残して、ファンティック・レーシングは、ロードレース世界選手権 Moto2 クラスにおける 2025 年チームタイトルを獲得した。

このタイトルは、一貫性、スピード、そしてチームスピリットの上に築かれた今季の傑出したパフォーマンスによって達成されたものである。そして、ファンティックにとって初のロードレース世界選手権のタイトルという快挙となった。シーズンを通して、バルタスとカネットは合計 13 回の表彰台を獲得。ファンティック・レーシングが Moto2 クラスの中で最も競争力があり、かつ安定したチームの一つであることを証明した。

ライダーズランキングでは、バルタスがランキング 3 番手を確固たるものとし、カネットは 4 番手に浮上。あらためて、チームの総合力とバランスの高さを示す結果となった。

第 22 戦バレンシア GP は、11 月 14 日から 16 日にかけて、スペインのリカルド・トルモ・サーキットで行われる。これが、2025 年シーズンの最終戦となる。

アロン＝カネット：
「完全に満足しているとは言えない。今日は、本当に表彰台が欲しかったからね。最後までトップを走るライダーたちについていくペースはあったけれど、終盤に攻めるためのわずかな部分が足りなかった。それでも、重要

なポイントを獲得したし、それがチームタイトルの獲得に繋がった。チームはシーズンを通して懸命に取り組んできたし、この結果は彼らの努力と一貫性の賜物だ。次のバレンシアに向けて、シーズンを最高の形で締めくくりたいね」

バリー＝バルタス：
「今日のトップ 5 フィニッシュにがっかりすることはないよ。チームタイトルを獲得した後なのだから、なおさらね。これで、二つのピット（バルタスとカネットの各チーム）が 1 年を通して全力で働いてきたことが証明されたんだ。この結果は彼らのためのものだ。すべての努力と、情熱に対してのね」

「僕自身のレースについて言えば、少し残念だった。表彰台争いができるペースがあると感じていたからね。1 コーナーで想定外のことが起きて、フロントブレーキに問題があってポジションを落とし、12 番手にまで下がってしまった。でも、そこから追い上げて 5 位でゴールできたのだから、いい結果ではある。速さも競争力もあったしね。今はもうバレンシアに集中している。シーズンの最後を最高の形で締めくくるために、全力を尽くすよ」

ロベルト＝ロカテリ（チームマネージャー）：
「私たちはワールドチャンピオンになりました。そして、その功績はチーム全員にあります。これまでバイクに乗るライダーたちを称えてきましたが、ファンティック・レーシングが世界チャンピオンを獲得できたのは、あらゆる部署が仕事をしたおかげです。この成果の裏には、二つのクルーの協力があり、技術者とメカニックが一体となって 2025 年に世界最高のチームを作り上げました。プロジェクトに携わったすべての人、そしてもちろんライダーたちにも祝福を贈りたいと思います。彼らは私たちを楽しませ、汗を流させ、そしてレースでの勝利や素晴らしいリザルトで大きな感動を与えてくれました」

■Moto2 クラス チャンピオンシップ ランキング

	ライダー	チーム	バイク	ポイント数	トップとの差
1	D.モレイラ	Italtrans Racing Team	KALEX	281	
2	M.ゴンザレス	LIQUI MOLY Dynavolt Intact GP	KALEX	257	24
3	B.バルタス	Fantic Racing	KALEX	232	49
4	A.カネット	Fantic Racing	KALEX	226	55
5	J.ディクソン	ELF Marc VDS Racing Team	BOSCOSCURO	215	66

■ライダープロフィール

アロン＝カネット

1999 年 9 月 30 日生まれのスペイン人。2016 年にロードレース世界選手権 Moto3 クラスデビューを果たし、2019 年にはランキング 2 位を獲得。2020 年、Moto2 クラスにステップアップ。2024 年にファンティック・レーシングに移籍し、ポルトガル GP で初優勝を飾った。このシーズンは小椋藍に次ぐランキング 2 位を獲得。2025 年、チャンピオン獲得を目指す。

目下、最大の目標は「世界チャンピオンになること」。幼少期は父親からカートを与えられたが、「バイクのほうがいい」と言って乗り始めた。その当時からゼッケン「44」を使用している。

バリー＝バルタス

2004 年 5 月 3 日生まれのベルギー人。2020 年に Moto3 クラスデビュー。2022 年に Moto2 クラスにステップアップした。初表彰台は 2024 年のカタール GP。この年、オートレース宇部レーシング・チームから鈴鹿 8 耐にも参戦している。2025 年、ファンティック・レーシングに移籍し、表彰台の常連になりつつある。なお、9 月 13 日に 2026 年もファンティック・レーシングから Moto2 クラスに参戦することが発表された。
バルタスの父親がバリー＝シーン（伝説的イギリス人 WGP チャンピオン）の大ファンで、そのためにバルタスは「バリー」と名付けられた。ゼッケンの「7」もこれに由来するもの。